

1 仕事と子育ての両立支援

【施策 1】仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進

★次期プラン★

現状	課題	施策の方向性・柱	目標(成果指標)	具体的な取組み(主なもの)
<p>◆<u>仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について、「調和がとれている」、「どちらか」というと調和がとれている」と答えた30代、40代男性の割合が低い。</u> *仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について、「調和がとれている」、「どちらか」というと調和がとれている」と答えた人の割合 [全体] 49.8% [30代] 28.6% [40代] 38.2% (H23)</p> <p>◆<u>「家庭内の仕事分担で配偶者に望むもの」については、男性よりも女性が多く挙げており、「食事の支度などをする」「掃除などをする」などの割合が高い</u> *配偶者に仕事分担を望むと回答した人の割合 ・夫が妻に望む割合 30% ・妻が夫に望む割合 65% *妻から夫に仕事分担を望む内容 ・食事の支度などをする 25.1% ・掃除などをする 23.9% (H23)</p> <p>◆<u>男女の役割を固定的に考える固定的役割分担意識は、依然として男性の約半数は肯定派である。</u> *男女の役割を固定的に考える固定的役割分担意識に対する肯定・否定の割合 [肯定派]57.5%⇒38.7% (H17) (H23) 男性 65.5% 46.1% 女性 52.2% 34.1% [否定派]34.3%⇒53.8% (H17) (H23) 男性 26.9% 47.8% 女性 39.8% 57.6% *「家庭生活」で男女平等と思う人の割合 20.6% (H23) 《全国 47.0% (H24)》</p>	<p>○仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合は、男女いずれも半数に届かず、特に子育て世代である30代、40代男性の割合が低くなっているため、働く人が働き方を見直すとともに、ライフスタイルを見直すことが必要</p> <p>○男女の役割を固定的に考える固定的役割分担意識は、依然として男性の約半数は肯定派であり、「家庭生活」での男女平等感是全国調査半分程度にとどまっている。 男女共同参画の視点に立った意識の浸透を図るとともに、男性が仕事だけでなく、子育て、介護等に参画し、家庭等において積極的に役割を果たすことが必要</p>	<p>〔方向性〕 ○仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)と男性にとっての男女共同参画の推進</p> <p>〔柱〕 ○事業者等との協働による仕事と生活の調和の推進 「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として企業への取組み支援、幅広い広報啓発等を推進していく。</p> <p>○男性の家事、子育て、介護など家庭生活への参画促進 男性の家事、子育て、介護などへの参画を進める。</p> <p>○男性自身の固定的役割分担意識の解消 男女共同参画の実現は、社会的責任等重圧の軽減や多様なライフスタイルの選択など、男性にとっても暮らしやすい社会を目指すものであることへの理解促進を図る。</p>	<p>○仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)がとれていると思う人の割合 目標：増加</p> <p>○小学生以下の子どもをもつ父親が、家事や育児をしている1日あたりの時間 ・家事をしている時間 目標：増加 ・育児をしている時間 目標：増加</p>	<p>[事業者等との協働による仕事と生活の調和の推進] ○仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進事業 ・「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザーの派遣、企業向け講演会や企業等への出前セミナーを実施する。</p> <p>[男性の家事、子育て、介護など家庭生活への参画促進] ○仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進事業 ・男女共同参画センター・ムーブ等における男性向け料理や介護の講座の開催、企業等の事業者に対し、男性社員の育児・介護関係制度の利用促進の働きかけを行う。 ・自治会・PTAなど地域団体、市民団体への参画を促すための広報・啓発を行う。</p> <p>[男性自身の固定的役割分担意識の解消] ○仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進事業 ・企業への出前セミナー、ワーク・ライフ・バランスの様々な取組み等により、男性にとっての男女共同参画の意義を啓発する。</p>

「元気発進！子どもプラン」次期計画策定検討資料

資料 1

1 仕事と子育ての両立支援

【施策 1】仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進

☆参考:現行プラン☆

現状	課題	施策の方向性・柱 (基本施策)	目標(成果指標)	具体的な取組み(主なもの)
<p>◇30歳～44歳のいわゆる「子育て世代」の男性は、長時間労働が多い。</p> <p>◇徐々に減少してはいるものの、子育てのため仕事を中断する女性がいる。</p> <p>◇個人が望むワーク・ライフ・バランスと「現実」との間に隔たりがある。</p> <p>◇以前に比べ、性別による固定的役割分担意識が薄れる傾向にあるものの、家庭生活で「男女平等」だと思う人の割合は、変化していない。</p>	<p>○子育て世代の長時間労働を解消し、子どもと向き合う時間を取れるようにすること等必要なときに休める環境づくりが必要</p> <p>○働き続けたい女性が、就労を継続できる環境を整えることが必要</p> <p>○出産後、再就職を希望する女性が働き方を選択し、就業できる社会環境づくりが必要</p> <p>○誰もが望む仕事と生活の調和のとれた社会環境づくりが必要</p> <p>○性別による固定的役割分担をなくし、父親が積極的に家事・育児に参画することが当然であるという意識づくりが必要</p>	<p>〔方向性〕 男女が共に働きながら、子育てができる風土の定着～仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進～</p> <p>〔柱〕 ○地域が一体となったワーク・ライフ・バランスの推進 ○企業等の仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進に対する支援 ○男女の固定的な役割分担意識の解消と男女共同参画への理解促進</p>	<p>○仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合 目標：増加</p> <p>○市内企業等における週労働時間60時間以上の雇用者の割合 目標：減少</p> <p>○仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合 目標：増加</p> <p>○家事・育児をしていない父親の割合 ・就学前児童の父親(家事) 目標：減少 ・就学前児童の父親(育児) 目標：減少 ・小学生の父親(家事) 目標：減少 ・小学生の父親(育児) 目標：減少</p>	<p>○地域ぐるみで働き方を見直す体制の推進</p> <p>○地域ぐるみで働き方を見直す体制の推進企業等におけるワーク・ライフ・バランス推進の支援</p> <p>○「北九州市職員の次世代育成支援プログラム」の推進</p> <p>○子育て等家庭生活や地域活動における男性の参加促進</p>